

令和元年度（平成31年度）学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月書面実施)	総合評価（3月31日実施）		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
1	教育課程 学習指導	<p>①探求活動、体験活動、研究活動の充実をはかり、生徒一人ひとりが個性を生かして主体的な科目選択ができる系と分野のシステムを構築する。</p> <p>②創造力、推進力、発信力の育成と学習習慣の確立を目指し、生徒一人ひとりが積極的に自己を伸長させるための学習支援を目指す。</p>	<p>①生徒一人ひとりの個性を活かし、創造的な活動ができる人材を育成するため、新学習指導要領に基づいた教育課程を編成する。</p> <p>②学習習慣を定着させ、生徒一人ひとりの主体的な学びを支援するために、組織的な授業改善を進める。</p>	<p>①各系、分野の施設設備を活用し、専門教育を充実させ、自ら課題を解決する力を育む。</p> <p>②生徒が主体的に学べるよう、研究授業や校内研修会を実施し、授業改善を図る。</p> <p>③新学習指導要領の施行に向けて、生徒にとって履修しやすい選択科目の登録につなげられたか。</p>	<p>①課題に対して自ら解決策を講じ、積極的に取り組んでいたか。</p> <p>②研究授業と研修会を行うことにより生徒が主体的に学べるよう取り組んだ。</p> <p>③新学習指導要領の施行に向けて、生徒の実情を把握し、教育課程編成の準備を進めた。年次毎のガイダンスと面談等を通して、生徒にとつてわかりやすい科目登録や履修指導を実施した。</p>	<p>①各系、分野の施設設備を活用し、自ら取り組み、課題を解決するよう取り組んだ。</p> <p>②研究授業と研修会を行う時間がもう少し確保する。</p> <p>③生徒の現状や関心に即し、単位制、2学期制の特色を活かした教育課程を編成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「課題研究」の教育活動の進化によって、思考力、判断力、表現力の向上が図られるように取り組んでいたい。 ・進学や就職の場面でも志望動機や将来展望等を自分の言葉で語ることが求められており、「課題研究」の学習成果は重要であり、生徒が意欲的に取り組むよう指導をお願いしたい。 ・自ら取り組み、課題を解決する学習が展開されており、今後も継続してもらいたい。 ・生徒による授業評価、研究授業、教科等研修会が行われており、今後も授業改善に活かしてもらいたい。 ・新学習指導要領の教育課程の編成では、単位制やセメスター制の特色はもとより、学校としての特色を最大限に活かしてもらいたい。 ・施設の老朽化は、優先順位を考慮し、施設修繕、設備更新計画を見直し、長期的視点かつ実効性のあるものとして実施してもらいたい。 	<p>①学習のねらいを理解させることにより、自ら課題を解決するよう取り組ませることができたので、深い学びの実現が図れた。専門教育における学習活動を充実させるため、施設や設備の修理・更新が望まれる。</p> <p>②研究授業と研修会を行うことにより、生徒の主体的な学習を推進するための指導方法等について共有できた。今後も、生徒自らが解決方法を思考する機会をできる限り設け、達成感を実感することにより学習意欲を一層高めることができることが課題である。</p> <p>③新学習指導要領の教育課程については、本校の単位制を活かした編成となるよう、セメスター制を含めて検討する。学習計画ガイダンス、個別ガイダンスと面談等の一層の充実を図り、生徒の進路を視野に入れた、わかりやすい科目登録や履修指導を計画し、遂行する。</p>	<p>①施設や設備の修理・更新については、関係部署と連携し、優先順位を考慮しながら、より実効性のあるものとして計画的に推進する。</p> <p>②生徒による授業評価を活用し、研究授業や教科等の研修会をより充実させることにより、生徒が自ら取り組み、課題を解決する授業実践をさらに展開する。</p> <p>③新学習指導要領の教育課程については、本校の単位制を活かした編成となるよう、セメスター制を含めて検討する。学習計画ガイダンス、個別ガイダンスと面談等の一層の充実を図り、生徒の進路を視野に入れた、わかりやすい科目登録や履修指導を計画し、遂行する。</p>	
2	生徒指導 ・支援	<p>①一人ひとりの生徒理解に基づく生徒指導や教育相談体制を充実させ、安心で安全に希望をもって学べる学校づくりを進める。</p>	<p>①生徒一人ひとりの多様性を踏まえた校内支援体制の推進を図り、安心で安全な、明るく活力のある学校をつくる。</p> <p>②年次会を核とした情報交換の徹底と関係グループとの連携により、生徒の様々な相談、問題に対応できる組織づくりを行う。</p> <p>③関係グループと連携し、挨拶の励行や規範意識の向上を図るとともに、自転車事故の削減に向けた取組を行う。</p>	<p>①生徒の主体的な発想を取り入れた行事運営に取り組むなど生徒会活動をよりいっそう活性化させ、充実を図る。</p>	<p>①生徒会活動の取組み状況と成果は十分であったか。</p> <p>②年次会やケース会議、いじめ対策会議、関係グループとの連携により、生徒の状況を適切に把握し、相談、問題に対処できたか。</p> <p>③安全で安心な学校生活に向けた取組、また、生徒の規範意識向上に向けた取組を充実させることができたか。</p>	<p>①各行事とも委員会等の生徒を中心とした活動を行なうことができた。</p> <p>②年次会を核とした情報交換を行い、フローチャートに基づき、関係グループとの連携により、様々な相談、問題に対応した。</p> <p>③交通安全に関する講習などを通じて生徒の意識向上につなげることができた。</p>	<p>①これまでの内容を見直し、従来通りだけではない工夫が求められる。</p> <p>②より迅速に生徒の様々な相談、問題に対応できるよう工夫する。</p> <p>③時間を守ることや校内美化などの点で、生徒の規範意識向上に向けた取組みが必要と思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と相手を守るために指導と意識向上について取組を発展させてもらいたい。 ・生徒の主体的な成長が図られるよう継続した指導をお願いしたい。 ・通り一遍の啓蒙活動では、形骸化することもあるので、ルールや規則はどうしてあるのか等を深く理解する時間を多くとり、反復継続指導してもらいたい。 ・「進んで良いことをする」ことのできる人財を多く輩出してもらいたい。 ・行事、委員会活動、部活動がしっかりと行われている。年々の積み重ねを大切にして、さらに充実させてもらいたい。 ・組織的な生徒指導が推進されており、今後もきめ細やかな生徒指導をお願いしたい。 ・引き続き交通安全の指導を推進してもらいたい。 	<p>①行事の企画・運営において生徒が力を発揮できるよう支援してきた。グループ全員で行事を運営することで、多方面から学校をあげた行事への雰囲気づくりに取り組むことができた。生徒間の引継ぎの仕組みを構築することが今後の課題である。</p> <p>②年次、関係グループと情報交換し、校内で連携して様々な相談、問題に対応することができた。生徒が抱える問題が多様化しているため、保護者、校外施設とも連携した対応が求められる。</p> <p>③交通安全への取組により事故削減につなげることができた。</p>	<p>①行事については生徒間の縦横の人間関係が構築できる体制づくりに取り組んでいきたい。</p> <p>②生活支援グループが新設されるため、生徒の様々な相談、問題に対応できる組織作りの見直しが必要である。</p> <p>③次年度も自転車事故への取り組みを強化、継続したい。生徒が主体的に規範意識の向上に取り組める支援を検討する。</p>

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月書面実施)	総合評価(3月31日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	①社会で生きるために必要な知識や能力を身につけるとともに、個々の進路希望を実現させるための支援とキャリア教育の推進を行う。	①生徒一人ひとりが主体的に進路を選択し、それを実現するために、キャリア教育及び進路支援体制の充実を図る。	①生徒が主体的に進路を選択できるように、年間指導計画を見直し、インターナーシップを実施する。 ②生徒の進路意識を高め、進路実現できるように面談や各種ガイダンスを適切に実施し、支援を行う。	①生徒が状況を鑑み、進路年間計画の内容を検討し、適切に実施する手立てを考えていか必要がある。 ②生徒の進路実現をかなえるような支援を行うことができたか。	①生徒の状況を鑑み、進路年間計画の内容を検討し、適切に実施する手立てを考えていか必要がある。 ②生徒の進路実現の支援を適切に実施している。	・進路希望と科目選択の整合性が取れるような働きかけが求められており、早い段階からの進路意識の醸成が必要である。 ・AO、推薦型入試では「課題研究」の取組や成果が自己アピールの有効なツールとなることを意識して取り組んでもらいたい。 ・入学定員厳格化によりAO、推薦型入試の難易度が高まっており、一般選抜対策としての学力向上に努めてもらいたい。 ・生徒一人ひとりの悩みに深く傾聴し個性を見極めながら伴奏支援していただきたい。 ・インターナーシップの推進を図るなどキャリア教育を充実させて進路希望の実現に努めもらいたい。	①策定した年間進路指導計画を計画的に実施することができた。生徒の自己実現をどのように支援していくかが今後の課題である。 ②AO・推薦で進路決定する生徒が多くを占める状況になっている。一方、一般入試で進路決定を試みる生徒も少數ながらいる。それぞれどのような支援ができるのか。基礎学力の充実を図るとともに、できることを検討していただきたい。	①生徒の進路希望状況を分析・把握し、それを実現するためにできる支援体制を確立する。 ②基礎学力の定着を図るため、ICTの活用など有効な手立てを模索していく。	
4	地域等との協働	①積極的なボランティア活動を展開し、地域の小中学校や自治会など近隣地域との連携を深め、地域に根ざした教育活動を推進する。	①コミュニティ・スクールを利活用するとともに、近隣の小中学校や大学、自治会等との連携を図り、生徒一人ひとりの主体性を育成する。	①地域の小学校(2校)と連携し、高校授業体験(科学技術体験教室)を実施する。 ②ホームページ運用を学校全体で取り組む。 ③学校周辺を重点におき、交通安全啓蒙活動等の取組みを推進する。	①高校授業体験において、満足度を維持したまま継続的に実施できたか。 ②ホームページ運用が学校全体でできたか。 ③地域や外部との連携、活動状況やその他の成果は十分なものであったか。	①鶴の台小学校(6月)実施、谷口台小学校(12月)実施予定。 ②ホームページ運用のため校内研修実施予定。 ③学校周辺で、外部と連携し交通安全デーを実施した。	①計画的に実施できるよう校内の体制を整える。 ②校内研修後の運用について検証を行う。 ③交通事故ゼロに向けて、日常的な取組及び環境整備の検討を行う。	・地域連携の重点は生徒の姿を地域に見せることで、通学や交通マナー、挨拶等の日常生活を常に意識し実践するような指導を継続してもらいたい。 ・地域に根ざす学校として地域貢献活動は有効である。 ・コミュニティの一員としてボランティア活動に取り組んだ生徒全員を称え高く評価してもらいたい。 ・ホームページの役割は大きい。学校からの情報をリアルタイムに発信するなど、さらなる充実に努めてももらいたい。 ・地域との連携による交通安全運動や、小学校との連携は継続してもらいたい。	①地域の小学校(2校)と連携し、高校授業体験(科学技術体験教室)を実施することで地域に根ざす学校としての役割を果たすことができた。 ②ホームページ運用を学校全体で取り組み充実した内容へと強化するため校内研修実施予定。 ③学校周辺で、外部と連携し交通安全デーを実施することで、地域全体での交通安全の啓蒙活動ができた。	①計画的に実施できるよう校内の体制を整える。 ②校内研修後の運用について、検証を行い更なるホームページの充実を目指す。 ③地域に根ざし、交通事故ゼロに向けた取組のために日常的な取組及び環境整備の検討を行う。
5	学校管理 学校運営	①事故不祥事の未然防止を徹底するとともに、教職員の実践的指導力の向上を目指す。 ②生徒の防災意識を高め、防災教育の推進をはかる。 ③充実した式典等の学校行事に取り組む。	①事故不祥事防止のさらなる徹底を図る。 ②防災教育の充実を図り、生徒一人ひとりの防災意識と災害対応能力を高める。 ③充実した式典等の学校行事に取り組む。	①関係部署と緊密な連絡をとり、式典が滞りなく進行するよう努める。	①式典が滞りなく進行することができたか。 ②災害時対応カードを用いて災害時の対応について考えたり、防災訓練を通して避難経路の確認をしたり、防災教育を行った。 ③入学式などの式典を行った。また新入生や新着任職員の環境整備をした。	①年間を通じて教育振興費については、会計処理を事故なくより的確に進めているよう体制を整える。 ②災害時対応カードを用いた災害時の対応について考えたり、防災訓練を通して避難経路の確認をしたり、防災教育を行った。 ③年間を通じて、式典は滞りなく進行することが出来た。より計画的に進められるよう検討を行う。	・安心・安全が第一と考える。 ・生徒が「守られている→自ら身を守る」といった意識を強く持つようになるとさらに良い。 ・学校目標を生徒にも分かりやすく説明してもらいたい。 ・職員会議などで伝達研修等を行い職員のスキルアップやモチベーションの向上に役立ててもらいたい。 ・公費・私費については、事故防止の観点から適切な会計処理が必要であり、確実な会計システムを構築してもらいたい。 ・防災教育の重要性が増しているので、継続的に充実させてもらいたい。 ・学校行事は引き続き全職員が協力し計画的に実施してもらいたい。	①年間を通じて私費である教育振興費の処理を的確に行うことができた。適正な執行のため、監査などの指摘事項の改善を図り確実な会計システムを目指す。 ②生徒に対して、災害時対応カードを用いた災害時の対応について、防災訓練を通じた避難経路の確認を中心とした防災教育を推進した。防災意識をより効果的に高める方法を充実させたい。 ③入学式、卒業式の式典を取り行つた。また新入生や新着任職員に必要な環境整備をした。徐々に修理修繕が必要な物が多くなってきている。	①教育振興費については、会計処理の方法などマニュアル化して周知する。 ②個々の防災意識をより効果的に高める方法を検討し防災教育の更なる推進をする。 ③年間を通じて、式典は滞りなく進行することが出来た。卒業式についても、急な計画変更に対して全職員で対応し、混乱なく実施することができた。次年度以降も、より計画的に進められるよう各グループ、年次との協力体制を強化する。環境整備に必要な備品などの修理や更新を計画的に行う。	